

～『読書の秋』です～

10月27日～11月9日は、読書週間です。読書週間は、戦後間もない、1947年に始まり、今年でなんと第72回となります。電子メディアも発達し、子どもたちもスマホでネットの記事を読んだり、動画を見たりということが増えている今、改めてゆったり秋の夜長に子どもと一緒に読書をするのは、いかがでしょうか。

～読み聞かせの大切さ～

☆物語による体験が想像力を育てる。

子どもが物語を聞いているときは、登場人物になりきって、想像の世界を自由に楽しみます。登場人物のうれしさや悲しさ、痛みなど、さまざまな気持ちにふれることで、他人の感情や思いを知ることができます。

物語の中で、いろいろな世界を体験することにより、想像力などを身につけていきます。

☆耳からおはなしを楽しむ

子どもは、言葉を耳で覚えます。耳からどんどん新しい言葉を吸収していきます。

ことばを覚えると友に、耳から聞いて、具体的な物や場面などのイメージを持ったり、様々な気持ちを感じたりすることが大切です。

☆文字が読めることと、本が読めることは別。

子どもが「字が読めるようになったから」といって、読み聞かせをやめていませんか？

文字を読めても、お話を楽しめるとは限りません。

また、一人で本が読めるようになっても、お話を聞く喜びは別の物です。小学生には、小学生の読み聞かせの楽しさがあります。

高学年や、中学生になったら、反対に子どもに読んでもらうのも素敵ですね。

☆「昔ばなし」の読み聞かせ

昔話は、言葉で語り伝えられてきたお話ですので、読み聞かせに向いています。

先人の知恵が詰まったお話を聞くことを通じていろいろな体験をすることは、子どもの成長につながります。